

瑞穂町多摩都市モノレール新駅周辺まちづくり検討委員会

第3回 検討委員会

日時 令和7年12月25日(木) 午後3時～

第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

1. 第2回 検討委員会の 振り返り

□ 第2回検討委員会での意見等のまとめ

第2回検討委員会での意見等	第3回検討委員会への検討等
産業近代化拠点の方向性としては賛同する。	気候変動や人口減少へ対応しながら、どのような観点や具体的な取り組みを行うべきかターゲットの絞り込みを検討しました。(本資料P14参照)
気候変動に対応する農工連携の新しいビジネスを瑞穂町で生み出すようなコンセプトは、一つの考えとしてある。	第2回において提示したコンセプトや前回の意見を踏まえながら、アジャイルしながら対応する方策を検討しました。(本資料P21参照)
尖ったところは必要だが、町の現状とあまりにかけ離れないようにバランスをどうとるか。	町の現状をかけ離れない視点を持ち、ビジネス経営支援事業を検討しました。(本資料P20参照)
新しい課題に対応する人材育成の場として、高校や大学と連携することも検討しても良いのではないか。	学校との連携について、どのような取組を行うべきか検討しました。(本資料P24参照)
産業近代化拠点として、人が集まり、何かを生むためには、コーディネート的な役割を担う人や組織が必要。	拠点が運営していく上で、どのようなことが求められるのか整理し、検討しました。(本資料P22参照)
拠点として、単純に産業が立地し、何かが行われるだけではなく、個々に訪れた町民が楽しみ、瑞穂の魅力を感じてもらえるような要素が必要。	町民が楽しみ、瑞穂の魅力を感じてもらうため、どのような取り組みが求められるのか、検討しました。(本資料P22参照)
農業と工業では分野が違い、またターゲットも違う。瑞穂町の中だけで完結するのではなく、もう少し広域的な視点が必要。	広域的な視点について、どのように取り組むべきか検討しました。(本資料P24参照)

第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

2. 視察等の報告 (農業WEEK)

□視察等の報告：農業WEEK①

第15回農業WEEK(RX Japan株式会社)

2. 視察等の報告 (農業WEEK)

□視察等の報告：農業WEEK②

● スマート農業周辺領域の整理(案)

「農業WEEK」の出展社情報を参考にスマート農業周辺領域を以下のように整理した

植物工場

太陽光型植物工場・スーパーアグリハウス(日栄インテック)
植物工場先端技術(恵葉&菜 健康野菜)
植物工場システム(三菱ケミカルアクア・ソリューションズ)
植物工場・アグリキューブID(大和ハウス工業×三協立山)
植物生体情報活用型セミクローズド温室(SINFONIA)
植物工場&植物栽培機(GROWISE)
スマート工場IoTソリューション(ケー・ティー・システム)

照明ソリューション(LED等)

高効率植物育成用LED照明(ARIAN TECH)

圃場管理ソリューション

ICT圃場水管理システム・WATARAS(クボタケミックス)
複数環境制御システム(SINFONIA)
圃場のリモート監視・Agriware(ケー・ティー・システム)

センシング・分析

分析・診断・検査(イノチオホールディングス)
土壌センシング(トヨタ自動車)
トヨタ独自のサンプル調製法・GRAS-Di(トヨタ自動車)
農業センサー(スマートロジック)
気流計測システム(KOA)
非破壊糖度計光センサー(ATAGO)

データ管理・可視化

スマート畜産マルチGWパッケージ「ドコモビジネス」
データ駆動型農業支援システム(パーソル)
クラウド型生産管理システム(ケー・ティー・システム)

自動操舵システム

農機用自動操舵システム(CHCNAV)
農機用自動操舵システム(Hi-Target)

農業ロボット

ブロッコリー自動収穫機(PSE)
大葉選別結束装置・SELBINDER(SINFONIA)
農業用多脚ロボット(かぞDXファーム)
自動追従運搬車(城南製作所)
屋外用リモート運搬台車(SINFONIA)
インテリジェント噴霧ソリューション(ALLYNAV)
育苗自動化設備(日本標準育苗)

農業ロボットシステムフレームワーク

汎用ロボットシステム開発フレームワーク(NSW)
転覆・横転事故検知装置(Inplab)

農業ドローン

穂の刈り取り専用・農業用ドローン(シンカグループ)

水耕栽培(ハイドロポニックス)

自然光利用型水耕栽培システム(兵神機械工業)

アクアポニックス

モジュール型垂直農業システム(アクポニ)

エアロポニックス

肥料・土・水

タイ産ソルガム サイレージ(サイアムレイワインターナショナル)
ORIGIN GEO土・水(ethical.)

その他

Solar-smart material・SOLAMENT(住友金属鉱山)

2. 視察等の報告 (瑞穂町 産業まつり)

□視察等の報告：瑞穂町産業まつり①

- 11月8、9日で開催された『瑞穂町産業まつり』において、『No. 6駅周辺まちづくり』に関するオープンハウスを開催しました。

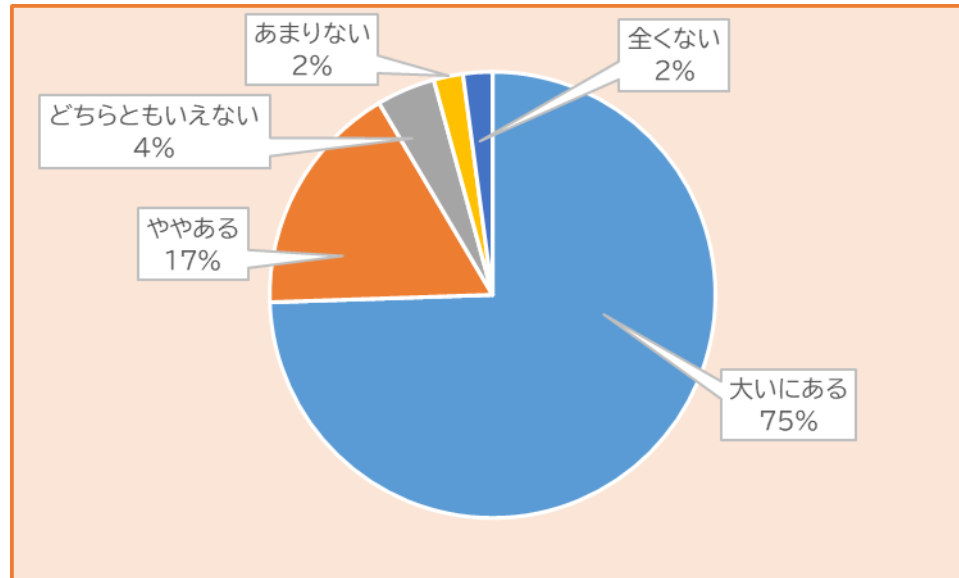


2. 視察等の報告 (瑞穂町 産業まつり)

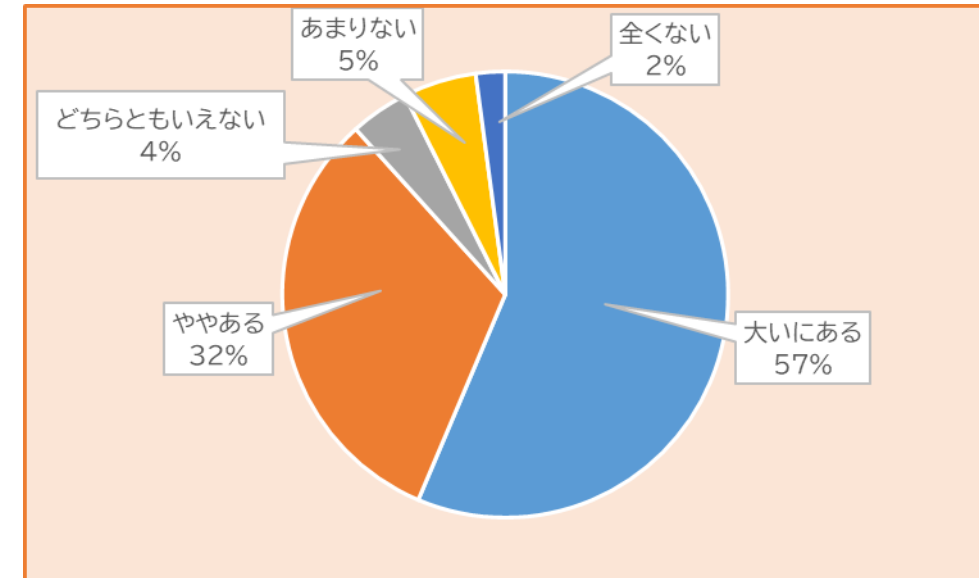
□視察等の報告：瑞穂町産業まつり②

- 『瑞穂町産業まつり』では、第2回委員会で課題として上げた、「気候変動」「少子高齢化」についてアンケート調査を行いました。

〔問1〕 現在進んでいる、気候変動についてあなた自身の仕事(生活)にどの程度影響がありますか？



〔問2〕 現在進んでいる、少子高齢化による人口減少についてあなた自身の仕事(生活)にどの程度影響がありますか？



第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

3. 実施方策の作成①

□第2回委員会資料：施策の方向性(案)

検討委員、企業ヒアリングで得られた示唆・課題等を踏まえ、
また、今回のヒアリング(町内事業者等)で得られた意見等を加え、
『施策の方向性(案)』 をまとめた。

課 題	施策の方向性
担い手不足	人材育成、スマート化(省人化・DX)、高付加価値化(待遇改善)
従業員の高齢化	スマート化(ヘルスケア、パワーアシスト、遠隔操作)
脱コモディティ化※ 販路拡大	高付加価値化(ブランド化、六次産業、ファントム工場の実質化)、 展示・販売機能の実装、体験農園・農泊などへの事業展開、広域連携
気候変動対応 脱炭素	品種改良、スマート化(植物工場化)、新たな特産品の開発、 電動化、持続可能燃料の活用、再エネ利用拡大、エネルギーマネジメント



まちづくりのコンセプト

『 危機を機会に変え、新しい時代に確かな暮らしを築く 』

※ 脱コモディティ化
(Decommodification): 商品や
サービスが市場で同質化し、価格競争
に陥る状態から脱却し、独自の価値や
魅力を付加して差別化を図ること

3. 実施方策の 作成①

□ 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)

● コンセプトを踏まえ、「やること」の仮説(第2回検討委員会資料)

□ やること(仮説)

- 「**連携**」 広域連携、産学連携、沿線学生との連携、町全体との連携、産業間の連携(加工業、六次産業)。
- 「**デジタル**」 デジタル化、DX、中小規模スマート農業、AI活用。
- 「**ビジネス支援**」 ソーシャルビジネスへの支援(都市課題の解決)、ビジネスコンテスト(企業の新陳代謝)。
- 「**経営支援**」 学びの場(人材育成)、事業承継、担い手づくり、人材交流、スタートアップ伴走。
- 「**農業支援**」 生産性向上、高付加価値化、裾野の拡大、ライフスタイルの開発、農産物販売。
- 「**みどりの創出**」 多面的機能を踏まえた農地やグリーンインフラ。
- 「**集客**」 モノレールに乗って訪れたいまち、暮らし方も含めて集まる人への魅力を提供。
- 「**施設整備**」 特徴ある施設整備による差別化、定常的な利活用を想定したオペレーション。



● 拠点導入機能の設定

- **スマート農業機能**
⇒ 環境制御による生産性の向上、DX化の促進等スマート農業、大消費圏である東京近郊への先端拠点、スマート農業のモデルルーム、体験農園、農泊、カフェレストラン、物販
- **ビジネス経営支援機能**
⇒ 既存技術の見える化・先鋭化、既存技術の高度化・新たな技術の開発
- **施設運営機能**
⇒ インキュベーション・交流拠点・ワークプレイス、研究開発拠点、スマート農業実証スペース

4. 実施方策の作成②

□ 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)

● 具体的な取組案の検討

拠点導入機能	やること(仮設)								具体的な取組案 (リーディング事業/その他)
	連携	デジタル	ビジネス 支援	経営支援	農業支援	みどりの 創出	集客	施設整備	
環境制御による生産性の向上、DX化の促進等スマート農業	○	○			○	○		○	スマート農業 推進事業
大消費圏である東京近郊への先端拠点	○		○		○	○	○		
スマート農業のモデルルーム	○	○			○	○		○	
体験農園						○	○		
農泊						○	○		
カフェレストラン					○		○		
物販					○		○		
既存技術の見える化・先鋭化	○	○	○		○				ビジネス経営 支援事業
既存技術の高度化・新たな技術の開発	○		○	○	○				
インキュベーション・交流拠点・ワークプレイス			○	○			○	○	施設運営事業
研究開発拠点	○	○	○					○	
スマート農業実証スペース	○	○	○		○	○		○	

3. 実施方策の作成①

□瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)

● ターゲット分野の絞り込みの観点

優先順位	観点	観点に関連する情報
優先する 観点	テーマの将来有望性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アグリテックレポート(NEDO)によると、「肥料」、「精密農業関連技術」、「環境制御型農業(CEA)」は、食料安全保障への対応の必要性や環境問題の影響から、今後期待が大きいテーマ ✓ 「自動操舵システム」は寡占市場化しており、テーマとしては取り扱いづらい
	競争の状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (公財)東京都農林水産振興財団、多摩テクノプラザ等との役割が重複しないか
	近代化拠点の提供可能なスペース等の必要な施設要件	<ul style="list-style-type: none"> ✓ インキュベーションや産業育成のためのゾーンや地域体育館等の敷地が必要と考ええると、農用地活用ゾーンは2～3ha程度か
	拠点近辺の制約条件(ドローン禁止 等)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 横田飛行場の高さ制限空域(制限表面)のため、建物等の高さが30～45m(=171～186m-141m)に制限される ✓ 横田飛行場に隣接することからドローン関連の実証に不適合
次善に 検討する 観点	瑞穂町等の工業系事業者との連携可能性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2022年の瑞穂町の製造業の粗付加価値額は前年比22.2%増の4,024.5億円で2年連続の増加 ✓ 製造業の内訳は、加工(57.6%)、塗装(8.2%)、精密部品(5.9%)、鉄鋼(4.7%)、包装(3.5%)の順
	瑞穂町等の農家への展開可能性	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 販売農家が大きく減少しており、割合が少ない(2020年で自給的農家223戸、販売農家115戸)。また、農業経営体117経営体のうち、1千万円以上の販売額は19経営体のみ ✓ 農地面積は288.3ha(2019年)。2017～2019年の推移をみると農地面積は減少が少ない ✓ 農業産出額は「野菜」(6億1100万円)、「花き」(1億1000万円)、「果樹」(1800万円)の順(2022年)

第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

4. 実施 方策の 作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

● 事業構築で検討する要素

項目	補足	検討内容
事業の目的と基本方針／コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> 事業を通じて実現したい将来像やターゲットと提供価値等のコンセプトを取りまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 『危機を機会に変え、新しい時代に確かな暮らしを築く』
導入機能	<ul style="list-style-type: none"> コンセプトを実現するための必要な導入機能を整理する 	<ul style="list-style-type: none"> 「スマート農業」、「ビジネス経営支援」、「施設」を主要機能とし、開発支援・教育・体験等の副機能も具備
対象地のゾーニング	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり基本計画で示したゾーン・施設の考え方をブラッシュアップ・深度化する 	<div>導入機能と事業設計から逆算してゾーニング</div>
具体的な取組(リーディング事業／その他)	<ul style="list-style-type: none"> 各導入機能・ゾーニングを実現する具体的な取組を、先行的に実施する事業(リーディング事業)とそれ以外の事業と区分して検討する 	<div>リーディング事業</div> <ol style="list-style-type: none"> 1. スマート農業推進事業 2. ビジネス経営支援事業 3. 施設運営事業
事業による効果	<ul style="list-style-type: none"> 事業のよる効果の期待や見込を整理する 	<div>事業概要の設計後に検討</div>
事業手法／事業スキーム	<ul style="list-style-type: none"> 事業手法・スキームを整理する 	
事業の実現に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業を推進する上での課題及び課題対応策を整理する 	
今後の流れ／想定事業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 今後の想定事業スケジュールを示す 	

取り扱う課題に応じて対応できるゾーニング

拠点運営事業
人・モノ・金をつなぐ西多摩版
ローカルゼブラ企業(仮称)推進事業

瑞穂町の産業近代化拠点

事例を参考に、主要機能・副機能に対応した具体的な事業を検討する

※ ローカル・ゼブラ：地域の社会課題を事業によって解決し、社会的インパクトと経済的持続性の両立を目指す中小企業・小規模事業者のこと。ボランティアのような一時的な関わりではなく、収益性のあるビジネスとして地域に根ざし、持続的に課題に取り組む点が特徴。

4. 実施 方策の 作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

1. 具体的な取組:スマート農業推進事業

●スマート農業分野における近代化拠点の役割設定のイメージ①

近代化拠点は、環境制御による生産性の向上、DX化の促進等、スマート農業の実装拠点の役割



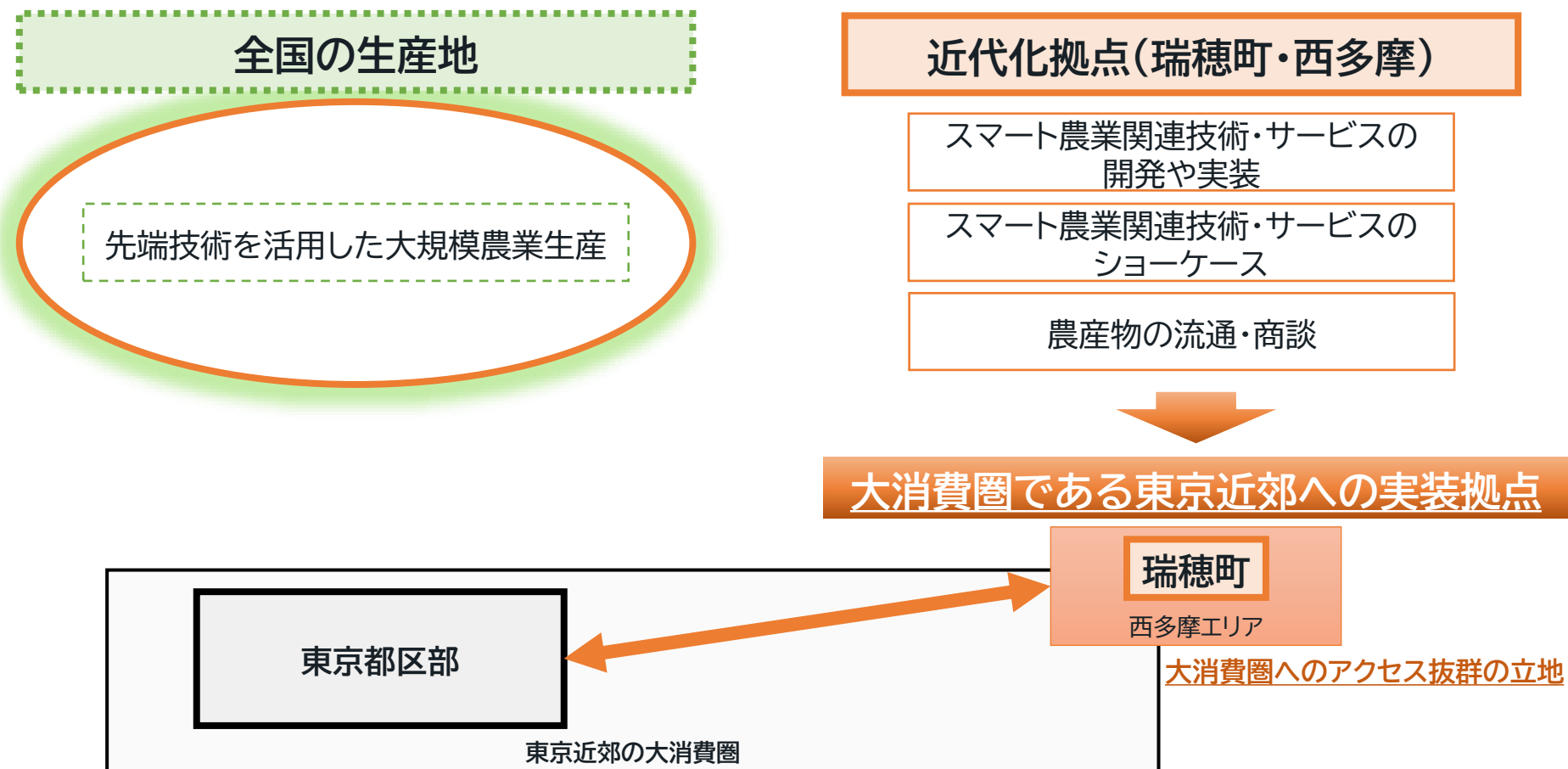
4. 実施方策の作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

1. 具体的な取組:スマート農業推進事業

●スマート農業分野における近代化拠点の役割設定のイメージ②

大消費圏である東京近郊へのアクセス抜群の立地である強み、全国の生産地の東京圏への様々な商機を見出す役割



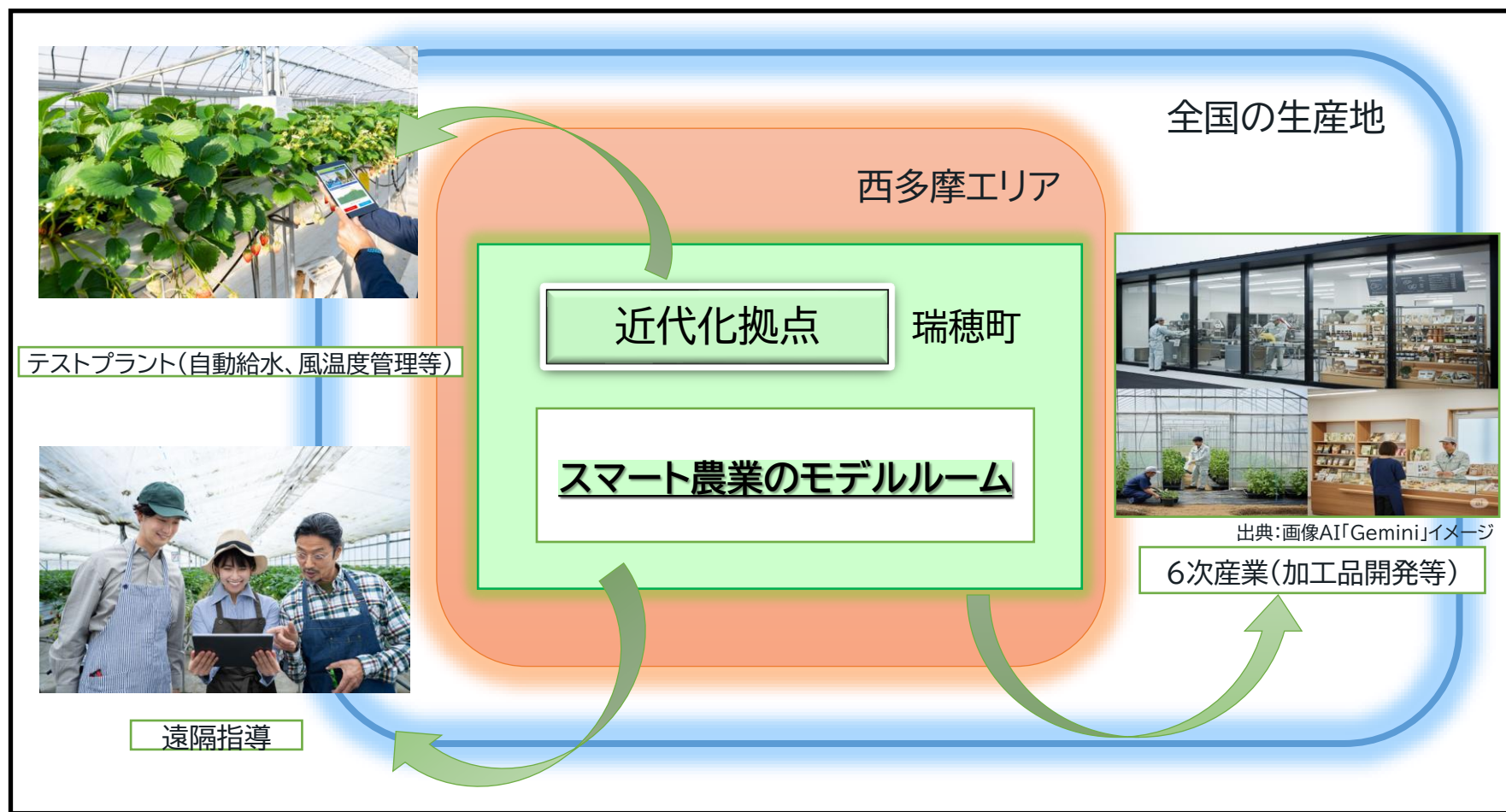
4. 実施方策の作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

1. 具体的な取組:スマート農業推進事業

●スマート農業分野における近代化拠点の役割設定のイメージ③

企業・研究機関等が開発した新しい技術の生産性や経営成立の検証を行い、製品化(商品化)したものを西多摩エリアや全国の生産拠点へ展開するスマート農業のモデルルームの役割



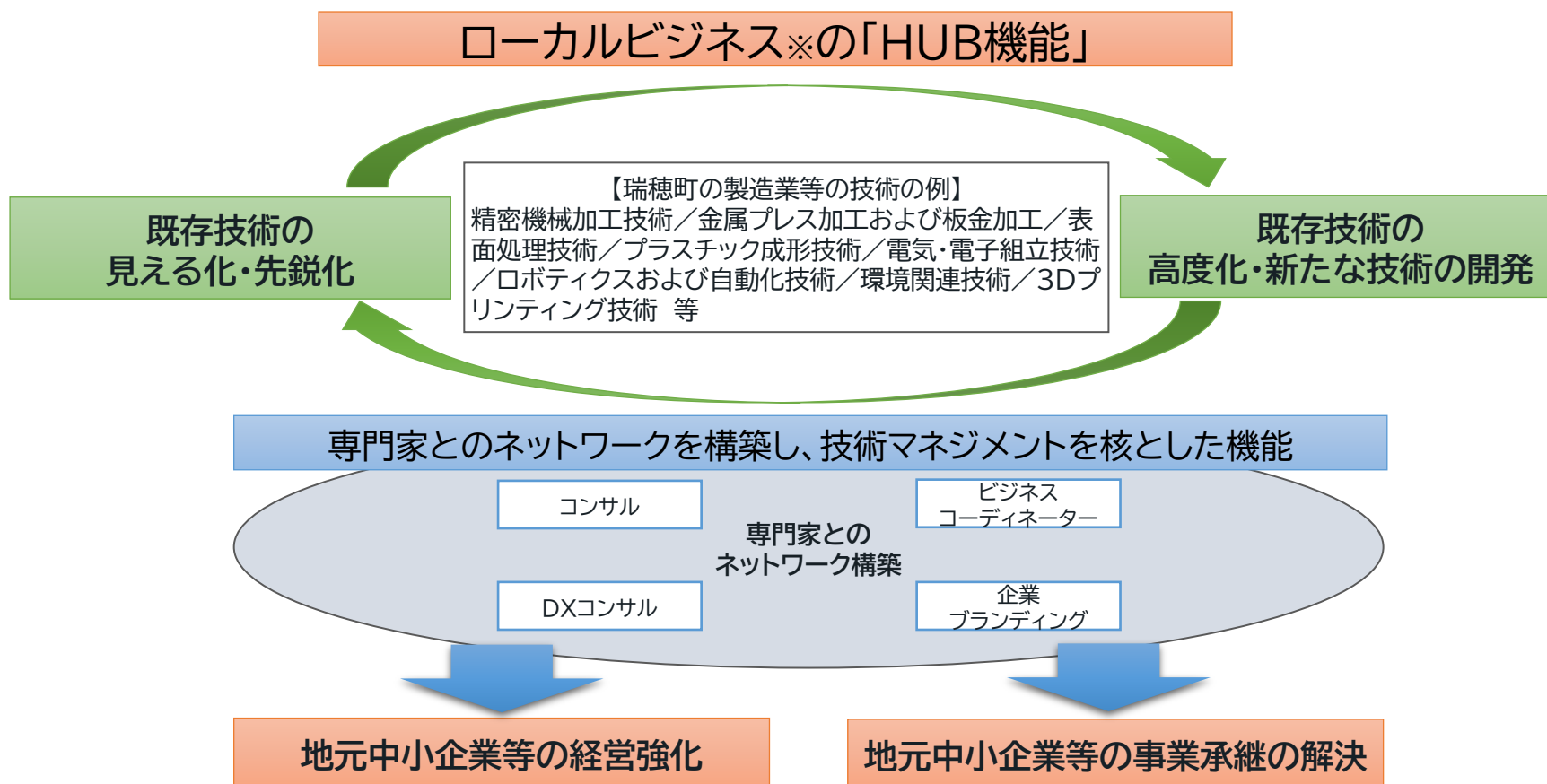
4. 実施方策の作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

2. 具体的な取組:ビジネス経営支援事業

●工業分野における近代化拠点の役割設定のイメージ

技術経営の考え方に基づき、瑞穂町の製造業等の技術に見える化・先鋭化するとともに、新たな技術の開発を両輪で進める。専門家とのネットワークを構築し、技術マネジメントを核とした事業を展開する「HUB機能」の役割



※ ローカルビジネス:特定の地域に根ざし、その地域の住民や企業に商品やサービスを提供するビジネス形態

4. 実施 方策の 作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

3. 具体的な取組:施設運営事業

- 各事業を展開する近代化拠点の施設と展開事業のイメージ



ビジネス経営支援事業①

- ✓ 経営相談支援(拠点常駐のアドバイザースタッフによる対応)
- ✓ 事業アドバイザー(専門家派遣)
- ✓ ビジネススクールの運営



ビジネス経営支援事業②

- ✓ 研究開発設備のレンタル
- ✓ 研究開発の相談支援
- ✓ 専門家派遣による研究開発アドバイザー



スマート農業推進事業

- ✓ 東京型スマート農業
- ✓ 大消費圏である東京近郊への先端拠点
- ✓ スマート農業のモデルルーム
- ✓ 体験農園
- ✓ 農泊
- ✓ カフェレストラン
- ✓ 物品販売



事例:NTT東日本・NTTアグリ
(出典:NTT東日本提供)

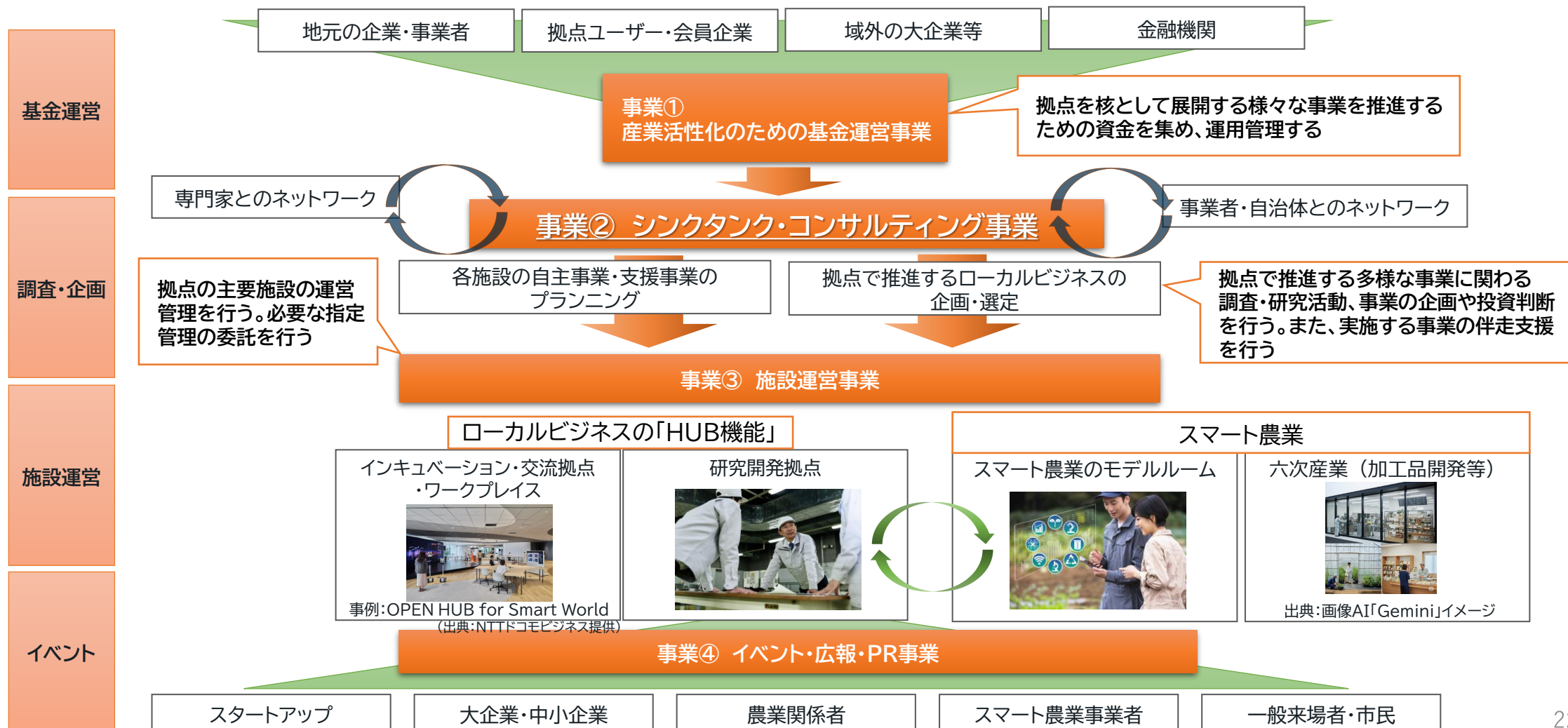


4. 実施方策の作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

4. 拠点運営の西多摩版ローカルゼブラ企業(仮称)推進事業

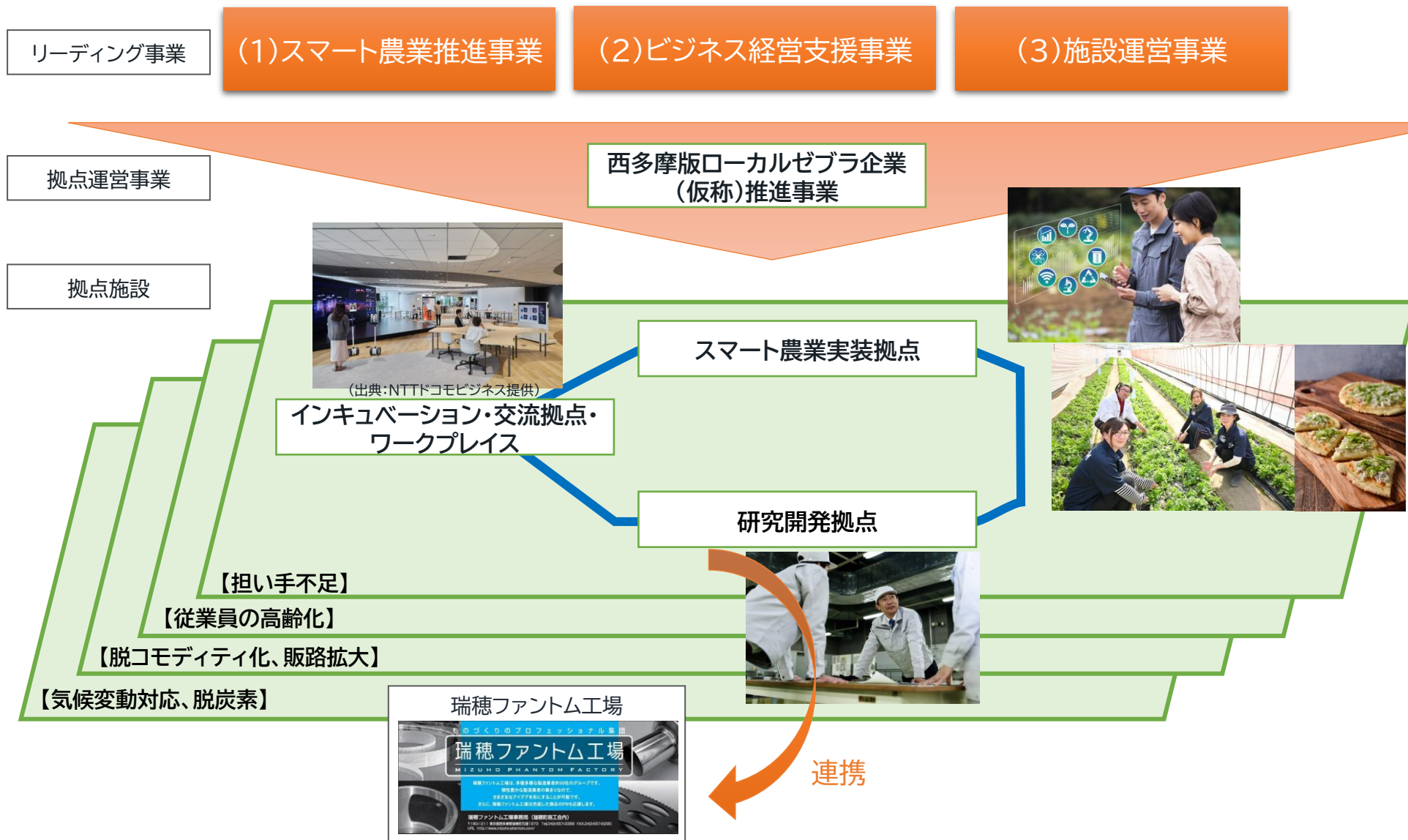
- 近代化拠点を核として展開する様々な事業を推進するための資金を運用管理(事業①)した上で、シンクタンク機能や事業の伴走支援(事業②)を行う。企業のベース事業として拠点の主要施設の運営管理(事業③)や集客のためのイベント・広報・PR事業(事業④)を行う



4. 実施方策の作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

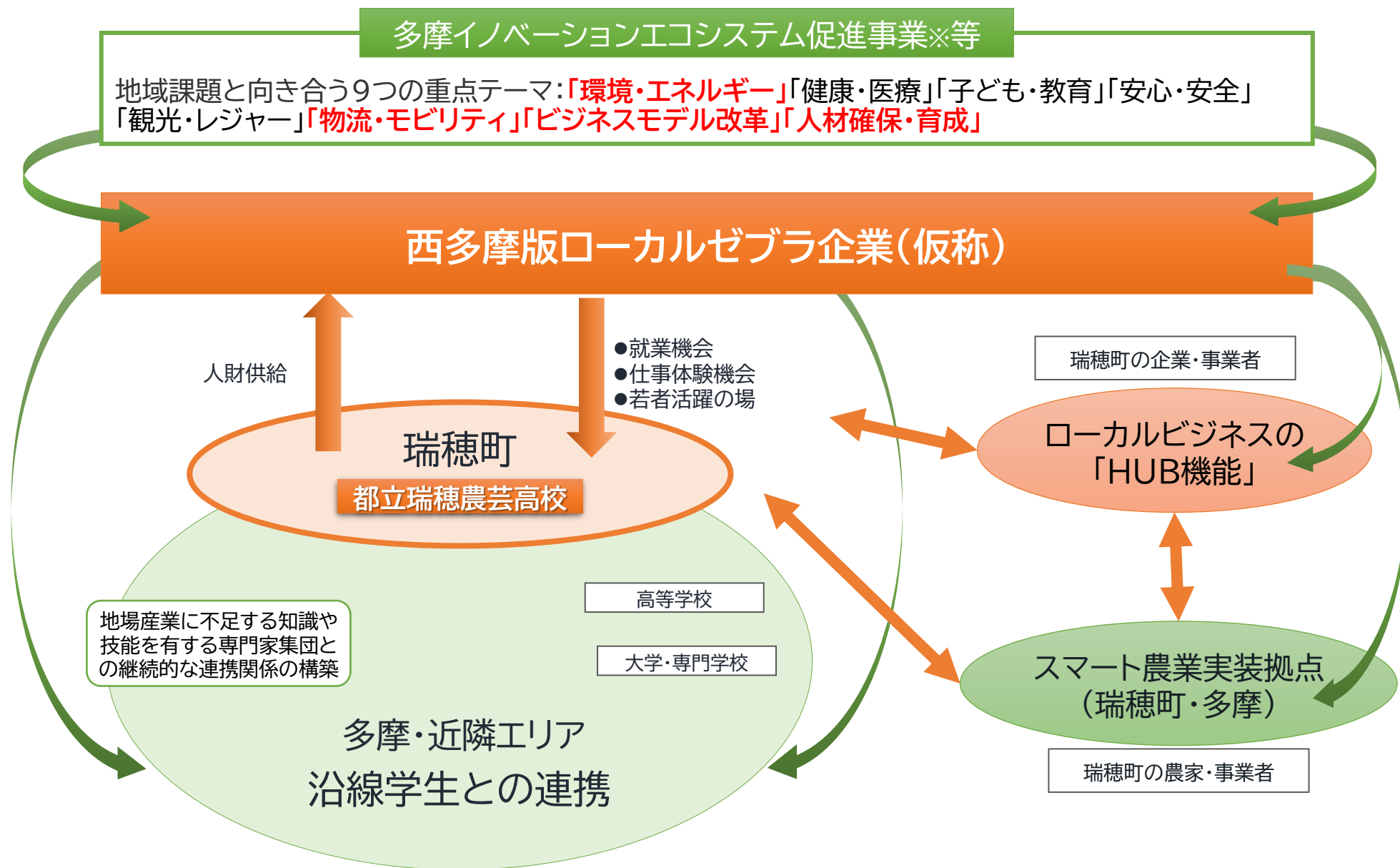
5. 拠点構成のイメージ ～ ローカルビジネスショーケース ～



4. 実施 方策の作成②

□新産業導入・育成拠点形成の方針(案)

西多摩産業支援の展開イメージ(案)



※ 多摩イノベーションエコシステム事業:多摩イノベーションエコシステム実行委員会の下、東京・多摩地域で、イノベーションを起こし続ける好循環(エコシステム)を作ることを目指して、中小企業や大学・研究機関、スタートアップ等の多様なプレイヤーが交流し連携を強める取組を展開。

4. 実施方策の 作成②

□ ビジネスショーケースのイメージ(案)

企業の連携・コンソーシアム形成拠点(案)

- ファントム工場との連携、コンソーシアムのような形を構築するための場、展示、商談等ができる施設。商談・交流スペース、技術・商品の展示スペースに加え、個々の企業では導入が難しい最新鋭の製造設備等を共同で調達



企業間の商談・交流スペース



共同利用できる最新鋭製造設備(3Dプリンタ、AI工場機器等)



技術・商品の展示スペース

出典:いずれも画像AI「Gemini」イメージ

第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

(1)スマート農業推進事業

施設の具体的イメージ:スマート農業実装拠点

- 近代化拠点の主要施設として、露地栽培から段階的にハウス栽培等の用地を拡大していく。
- 先進農業のコントロールセンター(機器保管場所を含む)も設置する。

スマート農業実装拠点

- 露地栽培用、ハウス栽培用及びコントロールセンターの3種類の異なるスペースで構成
- 拠点施設開業前～開業直後は、既存農地である露地栽培用地を中心にスペースを構成し、事業者の誘致に伴い、ニーズに応じて ハウス栽培スペース等を拡大
- コントロールセンターは事業者が共有して活用し、スマート農業の実装のモニタリングを行う。

5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

(1)スマート農業推進事業 [イメージ(案)]

スマート農業実装拠点

【スマート農業実装拠点の面積(案)】

- ✓ 露地栽培: 1~1.5ha→異なる作物の栽培や土壌条件を試験
- ✓ ハウス栽培(環境制御型): 1~1.5ha→温度や湿度を制御可能なハウスを設置
- ✓ コントロールセンター: ~0.5ha

【露地栽培の要件(案)】

- ✓ 多様な土壌条件
- ✓ 栽培区画の柔軟性
- ✓ 環境モニタリング
- ✓ 灌漑システム



【ハウス栽培の要件(案)】

- ✓ 環境制御装置
- ✓ 多層栽培システム
- ✓ 自動モニタリングシステム
- ✓ 栽培シミュレーション技術



事例:NTT東日本・NTTアグリ
(出典:NTT東日本提供)

【コントロールセンターの要件(案)】

- ✓ モニタリングおよび制御設備
- ✓ 遠隔操作機能
- ✓ 機器保管スペース
- ✓ トレーニングルーム



事例:NTT東日本・NTTアグリ
(出典:NTT東日本提供)

5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

(2)ビジネス経営支援事業

施設の具体的イメージ:インキュベーション・交流拠点・ワークプレイス

- インキュベーション・交流拠点・ワークプレイスと研究開発拠点を相互補完的に必要な機能や施設を検討し、利用者のニーズにあわせて一体的な施設として整備する

インキュベーション・交流拠点・ワークプレイス

- 必要性最低限のスペース、施設ながら、インキュベーション拠点として十分な機能を提供
- スタートアップ、農業関係者、工業関係者等の多様な人材が集まる拠点
- コミュニケーションラウンジ等では、スマート農業実装拠点と連携しカフェレストラン等で飲食を提供

5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

(2)ビジネス経営支援事業 [イメージ(案)]

インキュベーション・交流拠点・ワークプレイス

【施設の面積(案)】

- ✓ ~0.5ha: スタートアップ等をサポートするためのオフィススペースや試験用の小規模区画

【施設の要件(案)】

- ✓ オープンスペース: 自由な発想を促進するためにフレキシブルなオープンスペースを提供し、会議やコラボレーションのためのエリアを容易に設定できるようにする
- ✓ 会議室・セミナールーム: さまざまな規模の会議やセミナーができるよう、音響設備やプロジェクターなどを備えた部屋を数部屋設置する
- ✓ コワーキングエリア: 個別作業や小グループでの作業を支援するため、デスクや電源、Wi-Fiアクセスの整ったエリアを設ける
- ✓ コミュニケーションラウンジ: ネットワーキングやリラックスのためのラウンジスペースを提供し、軽食や飲み物が楽しめるカフェエリアを併設(※提供物は自然食レストランと連携)
- ✓ 技術支援デスク: スタートアップやプロジェクトチームを支援するため、ビジネス開発や法務相談が可能なデスクを配置
- ✓ イノベーションラボ: 実際にプロトタイプを作成できるよう、3Dプリンターや工作機器が利用できるラボスペースを提供(※研究開発拠点の施設と連携)



事例: OPEN HUB for Smart World

出典: NTTドコモビジネス提供

5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

(3)研究開発支援事業

施設の具体的イメージ:研究開発拠点

- インキュベーション・交流拠点・ワークプレイスと研究開発拠点を相互補完的に必要な機能や施設を検討し、利用者のニーズにあわせて一体的な施設として整備する

研究開発拠点

- 瑞穂町商工会が進めるファントム工場と連携して研究開発を推進
- 農業の六次産業化、スマート農業等の重点研究領域に特化した設備等を設置
- 近隣の研究機関や大手企業と連携し、高度で実践的な研究を推進

5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

(3)研究開発支援事業 [イメージ(案)]

研究開発拠点

【施設の面積(案)】

✓ ~0.5ha

【施設の要件(案)】

- ✓ **研究ラボ:**特定の研究分野に応じた専門的な設備や機器を備えたラボを複数設置し、効率的な研究が行える環境を整える
- ✓ **共同開発機器:**重点開発領域について、個々の企業では導入が難しい、最先端の開発機器を導入し、各社が共同で利用。また、加工設備、包装・ラベリング設備、商品開発キッチン、品質管理ラボ等の六次産業化に必要な設備を導入
- ✓ **コラボレーションスペース:**研究者が自由に意見交換やディスカッションを行える共有スペースを用意する(インキュベーション・交流拠点・ワークプレイスの施設と連携)
- ✓ **セキュリティとコンプライアンス:**機密情報を扱うための厳重なセキュリティシステムと、コンプライアンスに準じたデータ管理体制を確立する



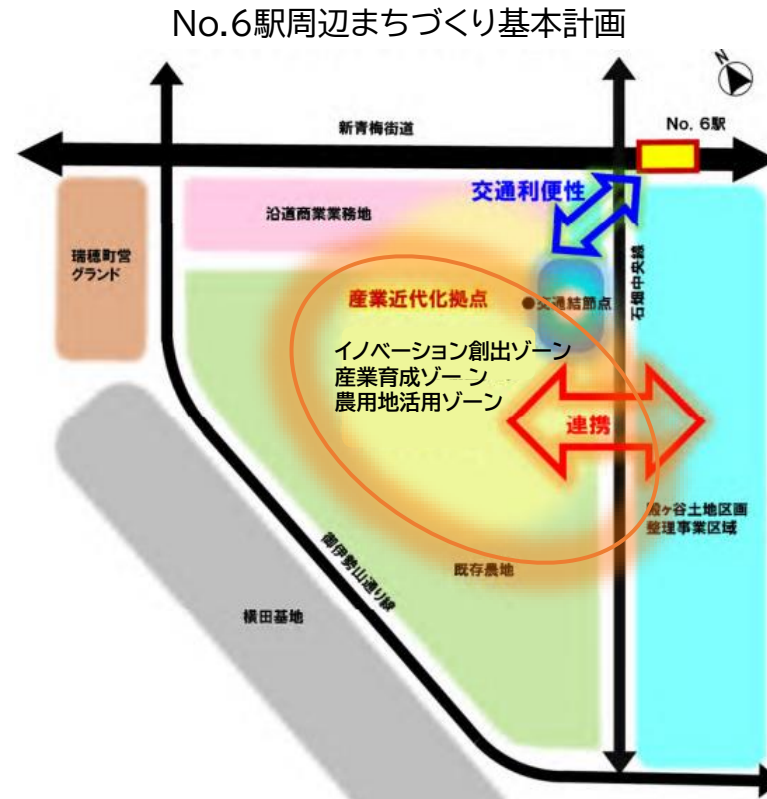
5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

『多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画』に示されている導入機能について、次のように想定する。

1. 整備検討エリアの設定

- 『多摩都市モノレール延伸を契機とした瑞穂町まちづくり基本計画』の方針



ゾーン・導入施設		考え方
イノベーション 創出ゾーン	研究・開発施設 等	<ul style="list-style-type: none"> ● 「健康・スポーツ」、「医療・福祉」、「環境・エネルギー」、「危機管理」等の成長産業分野を中心に、都市課題の解決に資する技術・製品開発テーマを明らかにし、新たな技術・製品開発に取り組むための機能を導入した「多摩地域のイノベーション拠点」としての位置づけ
産業育成 ゾーン	インキュー ションオフィス 等	<ul style="list-style-type: none"> ● 産業のデジタル化・DX化の推進や産官学連携等、多様な人材交流により、新たなビジネスの育成をサポートするための機能を導入 ● 新たに創業をめざす起業家の育成(インキュベーション)をはかり、事業成功に導くサポートを行うための機能を導入
農用地活用 ゾーン	スマート農業 関連施設等	<ul style="list-style-type: none"> ● 農用地という良好な環境条件や横田基地との近接性等を踏まえ、六次農業、ハイテク農業(スマート農業)等の先進農業推進拠点としての機能を導入 ● 農家との協働により、新たな農業振興のための拠点(農産物販売等)としての位置付け

5. まちづくり 計画(案)

□都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)

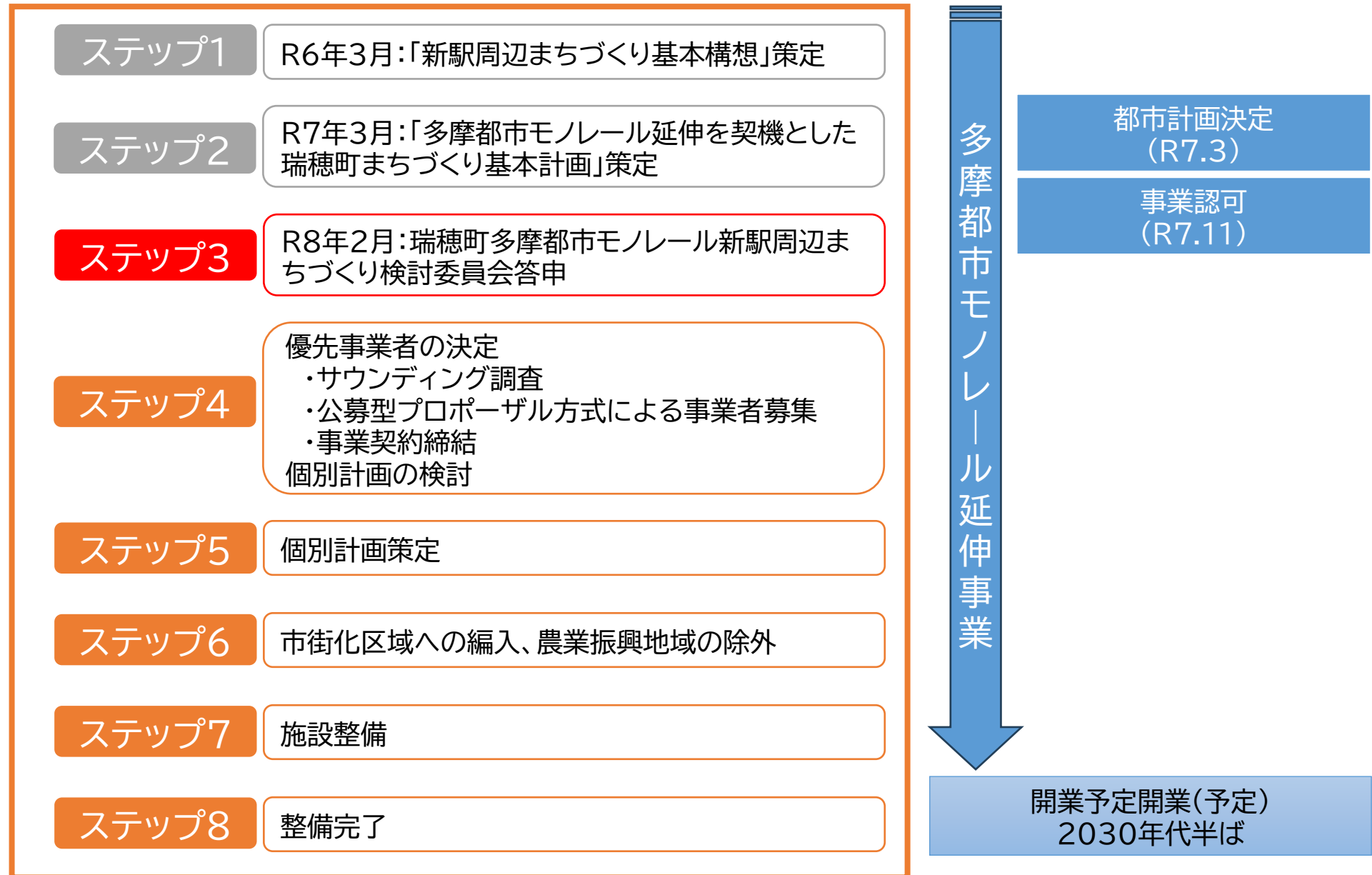
2.整備検討エリアの規模について

- NO.6予定駅整備を契機として実施する整備検討エリアは、導入施設の規模を勘案して下記のとおりである。

導入機能	対象となるゾーン (新駅周辺まちづくり基本構想)	想定規模	備 考
都市農地活用施設	農用地活用ゾーン	約2.5～3.5ha	
研究施設等	イノベーション創出ゾーン ・産業育成ゾーン	約0.5～1ha	

5. まちづくり 計画(案)

□スケジュール(案)



第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

6. 第4回委員会 に向けて

□ 委員会の開催予定について

- 第1回検討委員会 :5月13日(火)10時30分～
 - ・ 前提条件の整理、今後の進め方の確認
- 第2回検討委員会 :8月27日(水)15時～
 - ・ 町内事業者等へのヒアリング結果の共有・結果からの方向性
- 第3回検討委員会 :12月25日(木)15時～
 - ・ まちづくり計画(スキーム・事業内容等)について協議
- 第4回検討委員会 :2月頃
 - ・ まちづくり計画の了承

第3回 検討委員会 次 第

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 視察等の報告(農業WEEK等)
3. 実施方策の作成①
 - 瑞穂町における新産業拠点施設の要件(案)
4. 実施方策の作成②
 - 新産業導入・育成拠点形成の方針(案)
 - 施設整備における事業整理(案)
5. まちづくり計画(案)
 - 都市基盤・農業基盤整備のパターン(案)
 - スケジュール(案)
6. 第4回委員会に向けて
7. その他

7.その他